

アライプ ロバンス 後発組ゆえ差別化を 浦安市港物流センター上棟式

総合不動産事業を手がけるアライプロバンスは、2020年に新井鉄工所から浦安鉄鋼団地内に開発中の第1号物流案件「浦安市港物流センター」(仮称)の上棟式を行った。同社は1903年(明治36年)創業の新井鉄工所が前身。東京・墨田区に本拠を構え、石油・天然ガス掘削機器製造などをグローバルに展開してきたが、2016年に発展的解消し、第二創業と

して同社が選択した事業は不動産業だった。2020年6月より施工を開始、竣工は今年10月末の予定。東京ディズニーランドから至近に位置、窓から施設内のアトラクションとともに、東京スカイツリーを望むこともできる。



浦安市港物流センター



吊り上げられた最後の鉄骨



式後の記念撮影

ロケーションも奏功し、好評を得ているという。鉄鋼団地には新浦安駅から東京ベイシニシティバスでつながら、同施設前のバス停の名称を「アライプロバンス」にするなど、テナントへのアピールを強化する。「後発組の当

城東No.1 総合不動産 目指す インタビュー 新井太郎専務



新井太郎氏として、石油掘削に使用する油井管の継ぎ手を世界中に輸出するヒューストン

メーカーから転向して、総合不動産業として第二創業した背景は、1903年に創業した新井鉄工所から業態を変更した。120年弱続いた新井鉄工所は東京・墨田区で馬の蹄鉄などを手がける鍛冶屋、鉄工所を経て、戦時中は大砲や船のスクリーンも手がけ、軍需工場に指定され

と判断し、2016年に工場稼働を終了した。そこで、「私たちのDNAであるチャレンジ精神『アライプス』を生かし、躍進できる事業は何だ」と検討を繰り返して、事業転換を決断した。



浦安の完成予定図

と判断し、2016年に工場稼働を終了した。そこで、「私たちのDNAであるチャレンジ精神『アライプス』を生かし、躍進できる事業は何だ」と検討を繰り返して、事業転換を決断した。

理由には、社会貢献できる事業、私たちの強みを生かす事業が念頭にあった。当時、物流クライシスといわれはじめた時期。トラックドライバー不足とラストマイル問題が叫ばれていたため、当社が所有していた千葉・浦安市、東京・江戸川区の工場跡地と、城東地区で根ざしたネットワーク、人脈、信用を最大限に活用して、物流施設開発事業への参入を決めた。

また、当社は総合不動産業として、物流施設にこだわらず、土地取得からマンション・オフィスなど、不動産にかかわるすべての事業を展開し、地域の皆様にご提供していく。

浦安工場跡地に現在開発中の「浦安市港物流センター」は、4階建てのマルチテナント型。鉄鋼団地の地域特性として24時間稼働が可能で、幅員約22mの良好な道路が整備されている。最小区画7200平方メートルから4テナントが入居できるよう区分けを行うが、1棟借りしたいというニーズにも対応する。

国内外で多数の賞を受賞し、最近ではルイ・ヴィトンのポップアップストア設計で話題の建築家・菅原大輔氏を浦安案件のランドスケープデザイナーに起用した。斬新なバス待合所が一体とな

った施設の「顔」となる。「道の庭」、メインガーデンの「四季の庭」、南国をイメージさせる植栽、海に面するテラスを施した「海の庭」のランドスケープから構成。働く人たちが休憩時にリラックスできる空間となる。従来の物流施設に見られない空間づくりで、グッドデザイン賞受賞を目指していた。また、空きがあるため、お近くの物流事業者・工事業・バス事業者の方で、駐車場・資材置場・工事現場事務所などにお困りな

ら、ぜひお声がけいたいただきたい。

今後の展望は、長年アライの事業を継続してきた工場跡地は売らずに、人々のお役に立つ事業で貢献する。120年培った「アライプ」の精神に則り、城東地区の活性化に貢献するべく、次の100年に向けて、総合不動産事業で地域活性化を支援し、城東No.1の総合不動産を目指す。